

埼玉県立がんセンター レジデント募集中！！

～先輩レジデントからのメッセージ～

先輩レジデントから皆さんへのメッセージ①

消化器外科レジデント
高橋 彩乃
(R5～)

当院消化器外科は食道・胃・大腸・肝胆膵の4つのグループからなり、研修は1年間のローテーション後に2年目から専門科に進む3年間のコースと、1-2年間の専門研修を行うコースの2つがあります。これまで市中病院で勤務していたこともあり、まずはそれぞれのグループで専門的に癌診療を学びたいと思い、前者のコースでお世話になっています。

カンファレンスでの治療方針検討や、実際の手術および手術ビデオの振り返り等、多くの指導を受けることができ、とても勉強になります。

また、一般病院と異なり、緊急手術等は少ないため、癌診療について集中して勉強・研究を行うことが出来ます。当施設での研修に興味がある方は是非一度見学にいらしてください。

先輩レジデントから皆さんへのメッセージ②



消化器外科レジデント
塩見 真一郎
(R6～)

令和6年4月から、食道外科チームでレジデントとし勤務をさせていただくことになりました、塩見真一郎です。私は東京都立多摩総合医療センターで3年間の外科後期研修、1年間の東京大学医学部付属病院での臨床経験を積んだ後、東京大学大学院消化管外科学講座で4年間食道癌のリンパ流に関わる研究を行わせて頂きました。その中で食道癌の病態の面白さ、手術および周術期管理の奥深さに興味をもち、埼玉県立がんセンターでの修練を希望させて頂きました。当院では年間60例程度の食道癌の手術症例があり、全ての手術に関わらせて頂くことが出来ます。手術手技はもちろんのこと、術前カンファレンスでの検討内容や周術期管理の考え方など、基本的なところから非常に丁寧に教えて頂き、とても充実した毎日を送っております。看護師さんをはじめコメディカルの皆様も、日ごろから非常に親身に対応くださり、ありがたい勤務環境です。また、当院では豊富な症例数に基づいて、臨床的ないし基礎的な側面から研究活動を行うことも可能です。他科の先生方も非常に研究に対して親身に協力して下さいますし、研究や論文執筆にかかる費用も病院からご支援を頂くことができます。食道癌に興味のある若手消化器外科医の皆様、ぜひ埼玉県立がんセンターと一緒に働きましょう！

先輩レジデントから皆さんへのメッセージ③

消化器外科レジデント
石井 翔太
(R6～)

私は卒後6年目で当院消化器外科レジデントとして勤務しております。新潟県の新潟市民病院で初期研修・後期研修を積んだ後に当院へ赴任しました。

3年コースでは基本的に1年間の各チームローテーション後に専門科へ進みますが、現在は胃外科を中心に研修しております。当科では手術中の指導はもちろん、術後のビデオカンファなどを通じて手術を体系的に勉強することができ、チーム一丸となって技術認定取得を目指す環境があります。ロボット手術の修練環境も充実しており、シミュレーターや鶏肉を用いた練習に早い段階から取り組むことも可能です。また、他科とのカンファレンスや検討会を通じて、癌治療の知識を幅広く習得することができます。

当院での研修に興味を持たれた先生はぜひ一度見学にいらしてください。お待ちしております。

先輩レジデントから皆さんへのメッセージ④



歯科口腔外科レジデント
吉田 国弘
(R6～)

埼玉県立がんセンター歯科口腔外科レジデントの吉田です。私は広島県の福山市民病院で研修を受けた後、岡山大学病院口腔外科で4年間、臨床と研究に従事していました。口腔外科診療に携わるうち、もともと興味があった癌治療に対する専門的な知識や技術を習得したいと思うようになり、当院での研修を志望しました。現在当科は常勤医3名、レジデント2名、非常勤医2名(補綴科)の体制で、年間120例以上の口腔癌の治療を行っています。病院の性質上、症例の大部分は悪性腫瘍が占めており、すべての手術と病棟管理に参加するため、口腔癌治療を徹底的に学ぶことができます。

また、当科は口腔癌の治療だけでなく、周術期口腔機能管理も行っています。術前の口腔内診察に加え、化学療法や放射線治療、骨髄移植前の口腔ケア、口腔粘膜障害の対応にも携わっており、口腔領域以外の悪性腫瘍の患者様の治療に関わる機会も豊富にあります。様々な領域から得られる経験も、これから癌治療に携わる口腔外科医にとって非常に貴重な経験になると思います。口腔癌治療に興味がある口腔外科医は是非一度、当院へ見学にいらしてください。

先輩レジデントから皆さんへのメッセージ⑤



消化器外科 レジデント
羽部 匠
(R7～)

卒後11年目で当院消化器外科レジデントとして勤務している羽部と申します。

胃外科を専攻したいと考えており、豊富な手術症例数があり、集学的治療を行っている当院を志望しました。

がんに対する外科治療は薬物療法の発展とロボット支援機器を中心とした手術デバイスの革新によって年々、変化して発展してきています。

当院胃外科では食道外科と合同で行う上部消化管の外科カンファレンス、消化管内科と行う合同カンファレンスを通じて食道胃接合部癌や進行癌の治療方針を検討する機会があり、腫瘍外科医としての知識を幅広く学ぶことができます。

手術では腹腔鏡手術で執刀の機会が得られる他、ロボット手術へ参加して最先端の外科手術の考え方を学ぶことができます。

体系的に学ぶことができるのが当院のようながんセンターで研修をするメリットと考えています。

興味があれば是非とも見学にいらしてください。お待ちしております。

先輩レジデントから皆さんへのメッセージ⑥



歯科口腔外科 レジデント
益田 洋輝
(R7～)

令和7年4月から歯科口腔外科でレジデントとして勤務させて頂くことになりました、益田洋輝です。

私は都立大塚病院口腔科で2年間の臨床研修を受けた後、東京医科歯科大学病院で口腔外科診療を行っておりました。大学病院では顎変形症、唇顎口蓋裂や顎関節疾患の診療が大部分を占めており、研修医以降で口腔がんの診療に触れる機会がほとんどなかったため、当院レジデントに応募させて頂きました。

当院は症例のほとんどが悪性腫瘍であり、症例数も非常に多いため、口腔がんの診断や手術のみならず、化学療法・放射線療法に伴う口腔管理、摂食嚥下の評価などについて幅広く学ぶことができます。

初めのうちは戸惑うことや知識不足に悩むこともありましたが、指導医の先生方が常に臨床・学術の両面で支えてくださり、疑問を一つひとつ丁寧に解決していく中で、成長を実感することができています。また、学会発表や研究にも積極的に取り組める環境が整っているため、「将来的に口腔がん診療に携わりたい」「専門医・認定医を目指したい」という方には非常に良い研修機会になるはずです。

これからの歯科口腔外科医に求められるのは、臨床力だけでなく、チーム医療の中で主体的に判断・行動する力だと感じています。埼玉県立がんセンターには、それを自然と養える環境があります。

興味のある方はぜひ一度見学にいらしてください。

先輩レジデントから皆さんへのメッセージ⑦



歯科口腔外科 レジデント
下拾石 雄大
(R7～)

2025年4月よりご縁があり、口腔外科でレジデントとして研修を行っています。研修前は、鹿児島大学病院で口腔外科の臨床および口腔がんに関する研究を行っていました。当院口腔外科は口腔がんの治療を数多く行っている日本でも有数の施設です。年間を通した症例数では大学病院に勝るとも劣らない実績を持っています。

私は当初から、口腔がんの臨床に強い興味を持っており、3年間の研修にエントリーさせていただきました。最初は、縁もゆかりもない地での研修で不安もありましたが、指導医の先生方の時に厳しく、時に優しい的確なご指導もあり、日々成長を実感し、充実した毎日を送っております。また、手術や術後管理だけでなく、放射線化学療法における全身管理についても深く実践的に学ぶことができるのも強みだと思います。

他科の先生方との連携も強く、周術期の口腔管理や緩和ケア、遺伝子診断などがん治療の全ても学べる点も魅力の一つです。

がん治療に興味のある先生方には、これ以上ない環境が整っているので、ぜひ一度見学にいらして下さい。

先輩レジデントから皆さんへのメッセージ⑧

消化器外科 レジデント
川崎 一生
(R7～)

卒後7年目で当院消化器外科レジデントの川崎一生です。私は、東京都の板橋中央病院で後期研修含め4年間研修を積んでから当院に赴任しました。3年コースで応募し、大腸外科レジデントとして勤務しております。当院の大腸外科はここ数年、症例数が飛躍的に伸びています。内視鏡技術認定医の資格を有するエキスパートのスタッフの指導の下、レジデントにも多数の執刀機会があります。低位の直腸癌や多臓器浸潤癌の症例数も多く、助手として参加する手術も大変勉強になっています。また、大腸グループはとても雰囲気もよく、忙しい日々の中でも、充実した時間を過ごすことができ、大変満足しております。興味のある方は、是非一度見学にいらしてください、お待ちしております。

先輩レジデントから皆さんへのメッセージ⑨



消化器外科 レジデント
八木 宏平
(R7～)

埼玉県立がんセンター肝胆膵外科グループレジデントの八木宏平です。私は卒後11年目で、東京科学大の肝胆膵外科医局に所属しております。これまでは、大学院4年間以外はいくつかの市中病院で一般消化器外科医として勤務しておりました。肝胆膵外科領域の症例は、どうしても市中病院では十分な経験を積むことが難しいですが、埼玉県立がんセンターは肝胆膵外科のハイボリュームセンターであり、一般病院ではなかなか行われなような高難度手術を含めて非常に多くの症例を経験することができます。また、内科・放射線科との合同カンファレンスも毎週行われ、症例に応じた適切な治療方針の立て方も学ぶことができます。専門性を高めるには非常に良い環境だと思います。ぜひ、埼玉県立がんセンターにいらしてください。

先輩レジデントから皆さんへのメッセージ⑩



消化器外科 レジデント
古仲 良行
(R8～)

令和8年4月から、食道外科チームでレジデントとし勤務をさせていただくことになりました、古仲良行です。私は山形大学医学部医学科を卒業後、山形大学第一外科に入局しました。山形県内の病院をローテートした後、食道癌のエキスパートを志し、埼玉県立がんセンターでの修練を希望させていただきました。当院では年間60例程度の食道癌の手術症例があり、ロボット手術および胸腔鏡下手術の両方を行っています。豊富な手術症例に加え、処置対応や手術手技、周術期管理など、一つ一つ丁寧に考えながら行っており、大変学びとなります。また、消化器内科、内視鏡下、放射線治療科とのカンサーボードも週1回行っており、がん治療の知識を幅広く学ぶことができます。埼玉がんセンターでは、コメディカルの方々も親身に対応してくださり、働きやすい環境となっています。当院での研修に興味を持たれた方は、ぜひ一度見学にいらしてください。

先輩レジデントから皆さんへのメッセージ⑪

消化器外科 レジデント
牧野 七海
(R8～)

私は市中病院での外科専門研修後、埼玉県立がんセンターで消化器外科レジデントとして勤務しております。通常3年コースでは消化器外科各科(胃外科、食道外科、大腸外科、肝胆膵外科)のローテーションを行った後、専門に進みますが、私の場合ローテーションはせずに、大腸外科の研修を3年間行っています。

当院の大腸外科の症例数は豊富であり、通常の結腸癌や直腸癌はさることながら超低位の直腸癌や多臓器合併切除など、一般病院ではあまり行われないような手術も多くあります。今まで気に留めていなかったような細かな部分まで気を使った丁寧な手術が行われており、日々行われる全ての手術が勉強になっています。レジデントの執刀機会も多数あり、近年は毎年、内視鏡技術認定医の合格者を輩出しています。

興味のある方は是非一度見学にいらしてください。